

令和元年度 教育懇談会におけるご質問・ご意見要旨一覧(全会場)

※いただいたご質問・ご意見について、懇談内容ごとに分けて集約しております。また、総括して回答しているところがあります。

【帯広市教育基本計画】

分類	参加者からのご質問・ご意見	教育委員会からの回答等
その他	魅力的な教育を行っていくことは、これからの地域の生き残りにも関わる重要なテーマになっている。帯広市の魅力を教えてほしい。	中学校校区を一つのエリアと考える「エリア・ファミリー構想」において、保育所から始まり幼稚園・小学校・中学校、一部高校の連携を現在進めており、地域によって様々な住民の方々が携わってくれているということが、帯広市の特徴の1つではないかと考えている。
	第2期の帯広市教育基本計画は、これから策定されるというのか。	計画案として市民の皆さんに公表し、寄せられた意見を考慮して、令和2年2～3月には最終的な計画を示す予定である。

【みんなでいっしょに子どもを育む「コミュニティ・スクール」】

分類	参加者からのご質問・ご意見	教育委員会からの回答等
学校運営	コミュニティ・スクールについて、川西地区は1つになるのか。具体的にどのようになるかを教えてほしい。	令和2年度以降の取組みについては、各地域で複合的になるのか、単独で行うのか、小さい形で取り組んでいくのか、現在各学校と調整をしている。
	学校評議委員会とコミュニティ・スクールの違い、新しくコミュニティ・スクールをつくる目的を教えてください。	学校評議委員会は、学校のやり方を皆さんに理解してもらい、学校が主導になって取り組んでいく。コミュニティ・スクールは学校運営協議会を設置し、地域の方や保護者の皆さんにも学校運営に参画してもらう制度である。地域や保護者の皆さんと一緒に、「目指す子ども像」の実現に向けて、市全体で取り組んでいけるようにしたいというのが導入の目的である。
	コミュニティ・スクールで目指す子ども像をつくるということは、今あるエリア・ファミリーとリンクしているという理解でよいか。	ご質問の通りである。
	北海道に限らず、他の自治体におけるコミュニティ・スクールの活動の具体例を教えてください。	釧路の鳥取地区の小学校では、神社や神楽などの長い歴史があるものを通して開拓の歴史を学ぶツールの一つとして活用し、地域に愛着を持つ子どもたちを育てようという活動事例がある。
	広野小では、既に地域と学校が連携した行事などを多く行っているが、人口も減っていく中で、コミュニティ・スクールをやっていく必要があるのか。	時期によっては活動する方が少なくなることや、規模感など、検討しなければならない面もあるが、コミュニティ・スクールの考え方について各地域で共有を進めていただき、よりよいものにしていきたいと考えている。
	コミュニティ・スクールを導入している先進地は、どのくらいの頻度で学校運営協議会を開催したり、行事などを行っているのか。	最低限で必要な回数としては、「学校運営方針の承認」とそれに基づく目指す子ども像に近づいているのかという検証作業は必要になってくると考えているが、回数などについてはあまり大きな負担にならないように、学校運営協議会で様々な方法を取っていく必要があると思っている。
	なかなか地域の方が学校に関わったり、中に入っていくことがないと思うので、コミュニティ・スクールという制度を通して、どういった人が取組みなどに参加していくのか。	この取組みを通じて、地域の方にとって学校が遠い存在ではなく、近いものにしていきたいと考えている。学校側も発信を継続しながら、距離を縮めていく努力をしていかなければならないと思っている。
	コミュニティ・スクールについて、将来、再編計画との整合性を踏まえ、どのように進めていくのか。	現在、大空小と大空中を一体的な義務教育学校として整備を進めているが、その後の具体的な再編計画はない。再編ありきでコミュニティ・スクールの形を決めているのではなく、現状に合わせて進めていきたいと考えている。
コミュニティ・スクールについて、学校運営協議会に参加できる人はどのようにして決まるのか。	学校運営協議会委員の選定については、校長から推薦をいただいた上で、委員になっていただく。推薦については、例えば見守り活動の方や、図書ボランティアの方、町内会の方など、様々な方々から推薦をいただくことを考えている。	
学校・家庭・地域の連携	学校・家庭・地域の連携となると、家庭だとういった取組みに参加できる時間があまりないので感じる。実現が本当に可能なのか。	すべての方が学校での活動に参加することは難しいと思うが、こういった子どもに育ってほしいという気持ちを共有して、家庭でも子どもを育てていくことが一番大事なことであり、そこをつないでいくために制度化して物事を進めていくということが、コミュニティ・スクールの取組みであるためご理解いただきたい。
	地域と家庭の連携について、地域の人でも親が知らない人は子どもにとっても知らない人になると思うので、親同士がつながり、地域の人たちと親しく会話などをしていたら、子どもも信用し、関わりが広がっていくと思う。	困っているときに困っていると言えるような子どもに育ってほしい、もっと開かなくてはならないところもあると感じた。

令和元年度 教育懇談会におけるご質問・ご意見要旨一覧(全会場)

※いただいたご質問・ご意見について、懇談内容ごとに分けて集約しております。また、総括して回答しているところがあります。

学校・家庭・地域の連携	「自ら課題を解決していく力」は、具体的にどのような教科で課題能力を強化していくのか。また、「コミュニケーション力や協働する力」は、学校としてIQのことを考えているのか。	様々な授業や授業以外も含め、主体的に行動ができる、物事を自分で考えることができるように、子どもたちにとって何が大切か、子どもはどのようなことを学びたいのかということを考えながら、IQの高さということではなく、今後どのような時代になっても生き抜いていく力をつけていくことが大切だと思う。
	学校・家庭・地域の連携について、高校との関わりや役割はどのように考えているのか。地域の幼稚園や保育所との関わりがあればよいと思う。	中学校区を一つのエリアと考える「エリア・ファミリー構想」を通して、幼保小中連携を進めており、多様な関わり・つながりについて、行事等を通じて世代間を越えて交流するなど取り組んでいる。

【キリンにお嫁さんって来るの?】

分類	参加者からのご質問・ご意見	教育委員会からの回答等
生涯学習 (動物園)	動物園について、競馬場や帯広畜産大学と連携する計画はあるのか。	交通の確保や経費・獣舎、調教師の協力可能かどうかなどの課題はあるが、それぞれの良さを出し合って、今後も努力していきたい。
	動物園の施設について、少しずつでも改修を進めてほしい。	今の時代、動物福祉の視点は間違いなく必要になってくると思うので、ご意見も参考にしながら考えていきたい。
	動物園で募金を集めていると思うが、それをどのように使っているのか、いくら集まってもどのような物が買えるのかなど、目標みたいなものがあると、募金も入れやすくなると思う。	ご意見を参考にしながら考えていきたい。
	動物園でも、動物の移送の過程などの情報の開示を取り入れていくと、深いところまで知ることができて、好感が持てる。結果を見せるだけではなく、その過程に至るところを見せていくと、よりよくなると思う。	どういった過程で動物が来て、運営されていることがわかれば、もっと興味が湧くのではないかと思う。また、生活や生い立ちにもより興味を持てるようになるため、すごく良いことだと感じた。
	動物園へのアクセスのしやすさや、園内の寒さ対策について考えてほしい。	ご意見を参考にしながら考えていきたい。
	動物園で写真を撮る方などが時折大きな声を出したりすることが気になるため、園の方からも注意するなど伝えてほしい。	ルールやマナーの面では目に付くものについては、その都度適切に注意している。
	海外の動物園に比べて、日本の動物園は全体的に入園料が安い。消費者側が満足できるものになるのであれば、入園料の値上げもよいと思う。	(意見のみ)
	ネット上で、おびひろ動物園を中傷する人がいるが、子どもがその記事を見たときにとても傷つくと思う。払拭するためには、課題を分析して適切かつ丁寧に対応していくことで、子どもの不満感や不安感がなくなると思う。	以前に比べると、お褒めの言葉もいただいている。真摯に受け止めて、ご意見を参考にしながら、様々な情報をお知らせしながら考えていきたい。
	動物園について、定期的に情報発信しているが、紹介する動物やSNSで発信する動物の傾向・偏りがあると感じる。	担当者の判断で情報発信しているが、ご期待にそえるよう努めたい。
	広陽小・明和小方面から動物園や児童会館に行くのに便利なバス路線と、バス停が道道216号(八千代帯広線)側にあるとよい。民間のバス会社に設置をお願いしてもらえないか。	バス交通を担当している別の部署があるため、担当部署に要望を伝える。 ※現在、おびひろ動物園最寄りのバス停として十勝バス「大空団地線」の「動物園前」バス停、児童会館最寄りのバス停として北海道拓殖バス「南商業高校線」の「緑ヶ丘6」バス停があります。当バス停には「帯広駅前バスターミナル」や「長崎屋前」バス停から乗り継いで行くことができますので、ぜひご利用ください(別紙バスマップ参照)。 乗り方やダイヤなどの詳細については、バス事業者(十勝バス(バスターミナルおびくる):23-5171、拓殖バス:31-8811)にお問い合わせくださいますようお願いいたします。 《担当:商業まちづくり課(電話:65-4165)》
動物園に教育現場で得たノウハウを導入すれば、職員の能力や情報発信、飼育の問題など動物園の運営が改善されるのではないか。	ご意見を真摯に受け止めて、動物園を楽しんでいただけるよう努力していきたい。	
おびひろ動物園魅力アップ推進プランの策定に向けた取り組みについて、今年度の具体策はあるのか。	プランについては現在策定中であり、策定次第、お示しいたいと考えている。	

令和元年度 教育懇談会におけるご質問・ご意見要旨一覧(全会場)

※いただいたご質問・ご意見について、懇談内容ごとに分けて集約しております。また、総括して回答しているところがあります。

生涯学習 (動物園)	動物園で敬老の日のイベントがなくなったが、高齢の動物も多いので、そういう企画もよいのではないかな。	ハロウィンのイベントであれば、動物の年齢にこだわらずに、動物にいつもと違う食べ物をあげることができるほか、健康に気遣うため、変更した経緯がある。
	動物の慰霊祭をおびひろ動物園ではやっていないが、命の授業、命を教えるという点からも慰霊祭や慰霊塔があってもよいのではないかな。	慰霊祭については、実施している動物園とそうではない動物園があり、おびひろ動物園としては、亡くなった動物がいた場合にはそれを偲び、皆さんにお知らせするよう努めている。
	動物園は、環境や多様性、絶滅などの様々なテーマを学ぶ場になるため、子どもたちが学べるように、授業等の取組みを進めてほしい。	ご意見を参考にしながら考えていきたい。

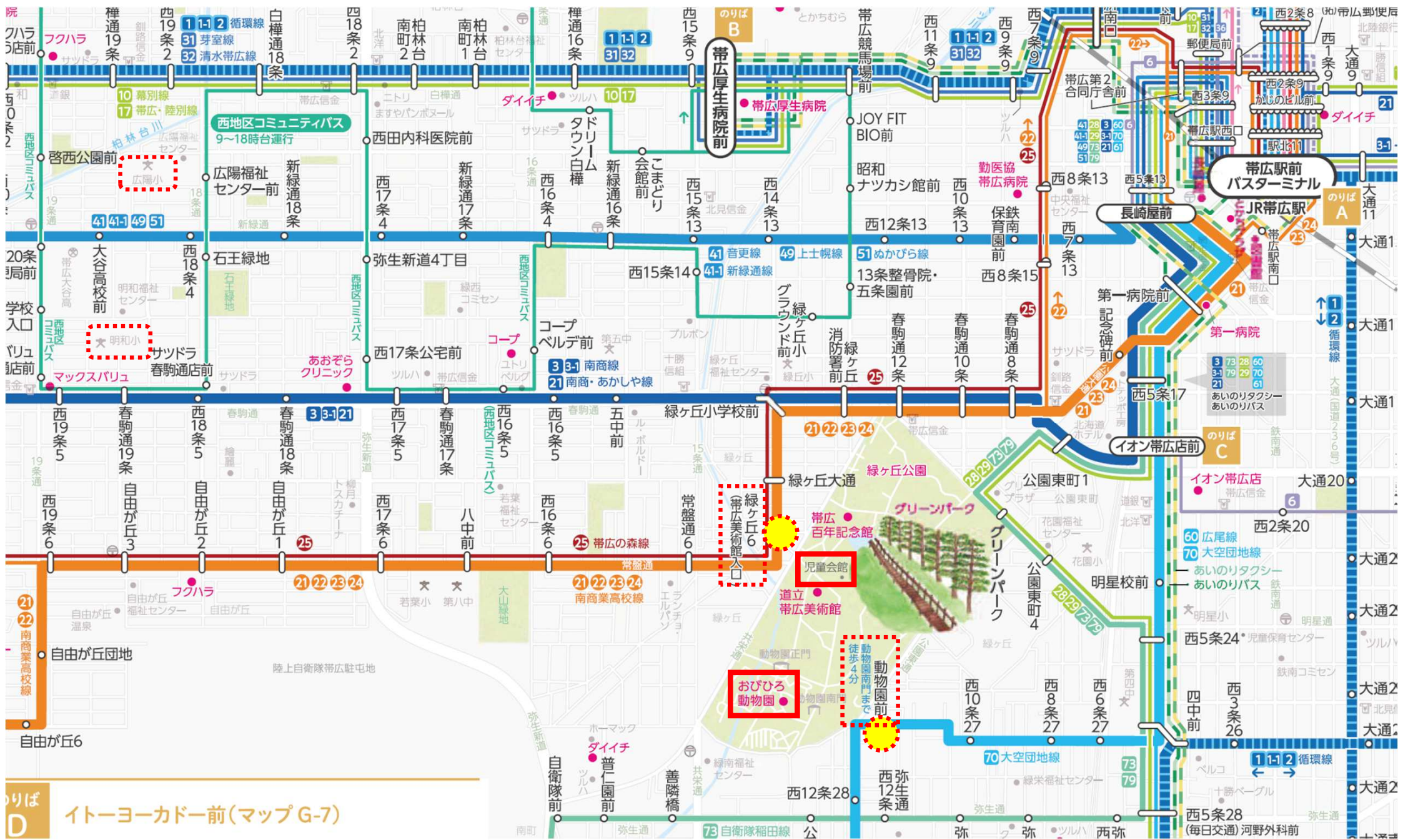
【教育全般】

分類	参加者からのご質問・ご意見	教育委員会からの回答等
学校運営	教職員がこんなに忙しい原因は何なのか。それに対しての帯広市の考えを聞きたい。	部活動のこともあるが、複雑な家庭環境の子どもが増えていることや支援が必要な子どもが増えていることなど、学校現場が従来に比べ複雑化してきていることが要因として考えられる。教職員が、子どもたちと向き合う時間を多く取ることができるようにしていかなければならないと考えている。
	教職員の働き方改革について、教育委員会で意識していることは何か。	本市の部活動の方針は本年9月に策定し、今後学校で具体的な議論を進めていく。働き方改革については、様々な角度から、どのようにして今の状況から教職員の負担を少なくすることで、児童生徒と向き合う時間を確保するかという視点で考えていきたい。
	教職員が本来の業務に集中できるように考えてもらいたい。	様々な家庭環境などの子どもたちがいる中で、何を削って何を大事にしていくかということは、子どもたちにとって何が一番良いのかということを念頭に進めていかなければならないと考えている。
学校運営・ 教育内容・ 教育環境	部活動の時間が長いので、抑制し、少しずつ減るようにしてほしい。	本年9月に本市でも部活動に関する方針を策定し、市P連や中学校に対し説明を行い、中学校では現在、この方針に倣い、本来の部活動のあり方や学校教育の中での子どもたちへの部活動のあり方を考えていこうと様々な議論がされているところである。今後も、子ども中心に学校とともにしっかりと進めていきたいと考えている。
	部活動よりも、魅力的な学習と教職員の質を高めてほしい。	部活動は自主性を養うところであり、学校や保護者の方も含め、物事を考えながら進めていきたい。
適正配置・ 小中一貫 教育	帯広市の今後の小中一貫教育についての考えを教えてください。	小学校と中学校を1つの発達段階で、進学や進級に伴うギャップを埋めていきたいという考えである。段階的に小中一貫教育に進んでいくことで、これまで以上に一貫という意識を持って進めていきたいと考えている。
	小中学校の統廃合と小中一貫教育の推進について、具体的にどのようなようになっていくのか。	小中一貫教育と学校の統廃合はイコールではなく、「中1ギャップ」と呼ばれる小学校から中学校への移行段階での環境変化を少しずつなだらかにし、現在の小中学校の形態を基本としながら、密接に連携し、これまで取り組んできた連携も含めて小中一貫教育として進めていく考えである。
通学路・ 不審者対 策・通学 支援	中学校の自転車通学は、いつから認められたのか。	自転車通学の開始時期については、教育委員会として記録が残っていない。当初は学校ではなく、保護者会が一定の基準を持って自転車通学を認める形で始まったようであり、現在は学校が許可を出している現状である。
	自転車のマナー教育は、小中学校で年に何回実施しているのか。	学校によって実施する学年や内容は異なるが、小学校ではすべての学校で実施している。小学1年生については入学後1ヶ月くらい日常的に指導を行い、年間1回から2回交通安全指導員が安全教室を行っている。それ以外の学年については、小学校では年1回程度、指導員を活用した安全教室を実施しており、中学校においても同様に安全教室を行っている学校もある。
生涯学習 (スポーツ)	スポーツ施設の修理・修繕について、進めてほしい。	施設の修繕については、老朽化している施設もあり、限られた予算の中で今後施設をどのように活かしていくか、これからの修繕をどのように対応していくかということを含め、長期的な視点を持って計画的に進めていきたいと考えている。

令和元年度 教育懇談会におけるご質問・ご意見要旨一覧(全会場)

※いただいたご質問・ご意見について、懇談内容ごとに分けて集約しております。また、総括して回答しているところがあります。

生涯学習 (スポーツ)	学校体育館の開放における冬場の温度について、適切な対応をお願いしたい。	スポーツで利用されている方が寒くて支障が出るということは、開放している上で十分な役割を果たしているとは言えないため、ご意見を参考にしながら、対応について考えていきたい。
その他	フッ化物洗口について、安全性について賛否両論ある中で、どのように考えているか。	歯科医師会から、フッ化物洗口をしていた小学校から中学校へ進学した子どもと、そうではない子どもの虫歯の本数が異なるという実例が出ており、過去にも事故などの問題が発生したことも聞いていないことから、今後もフッ化物洗口については進めていきたいと考えている。また、フッ化物がどのような物なのかということについては、学校現場にも説明は十分に行っており、今後も丁寧な説明を継続していく必要があると考えている。
その他	口腔崩壊を起こしている子どもたちの歯科指導やフォローアップを検討しながら、施策に活かしてほしい。	フッ化物洗口のみが、歯科予防の手段であるとは考えていないため、どんなことを子どもたちのためにしていけばよいのかということをご意見を参考にしながら考えていきたい。
	療育手帳等をお持ちの方は、手帳を掲示すると、本人と介助者の一部について帯広市の児童会館や美術館などの公共施設への入場が無料になる。療育手帳等を持つ方だけでなく、受給者証を持つ方やその介助者に対しても同様の扱いとならないか。予算上のこともあると思うが、福祉についてももう少し力を入れて取り組んでほしい。	帯広市の児童会館や百年記念館等、市立の文化・体育施設の利用料金については、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は無料、その方の介助者1名についても無料としている(身体障害者手帳をお持ちの方は、1～2級の方のみ介助者1名無料)。障害をお持ちの方がご不便を感じることがなく、より安心して施設を利用できるよう、ご意見を参考にしながら考えていきたい。
	ボランティア活動について、日頃から人との関わりを大切にしてもらえると、楽しいボランティア活動ができる。	(意見のみ)
	教育懇談会という場があることを知らない方も多いと思うので、アクセスしやすい情報を提供したらよいと思う。	広報については、市の広報紙や学校へのチラシ配布などを行っているが、今後紙媒体以外でもできることをさらに検討していき、多くの方に興味を持ってもらえるように努めていきたい。
教育懇談会の周知方法について、広報紙で周知してもボリュームがありすぎて細かく見ていない。夕刊紙を活用したほうがよいのではないか。	周知方法については、様々なメディアを活用してお知らせしていかなければならないと考えているが、大切なことは皆さんに広く色んなことをお知らせしていくことで、教育への関心を持っていただくことにつながると思うので、今後も取り組みを進めていきたい。	



【参考】動物園・児童会館周辺バスマップ